

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

東日本大震災救援・復興活動ニュースレターも40号になりました。今回は、原町ベースが1周年を迎えた喜ばしい記事とともに、他のベースでスタッフとして活動しながら、自分の休暇を利用して原町ベースにボランティアとして入った経験を3人の方からお寄せいただきました。その他、ご紹介する記事は、「シスターズリレー」として最初から活動の輪をつないでくださり、2年目に祈りの輪をつないでくださった、日本中の修道女の方々のラストを飾った報告。そして、「瓦礫撤去も続く中で」活動をしている米川（南三陸）ベースの紹介と、米川ベース近くにある聖母訪問会の活動紹介です。

CTVC カリタス原町ベース 1周年

2013年6月1日、CTVC カリタス原町ベースは開所1周年を迎えました。この1年間で、延べ1,000人のボランティアの方々にベースを利用いただきました。2012年4月に南相馬市小高区の一部が、そして2013年4月には浪江町の一部が警戒区域再編となり、3年たった今もボランティア活動のニーズがあります。警戒区域内に実家がある方々は、より実家に近い原町区の仮設住宅に移ってこられます。仮設住宅の生活が長くなるにつれて、仮設住宅集会所でのカフェやイベントなどのボランティア活動のニーズはさらに続いていくことと思います。



ボランティア活動は、社会福祉協議会と協働で行う被災住宅の大掃除、家財道具の片付け、庭の草刈を行うほか、各地から送られてくる物資を仮設住宅の各戸に届けたり、仮設住宅集会所でのカフェ活動に参加し、折り紙、パッチワーク、体操、カラオケを通して、共に同じ時間を過ごし、気持ちも分かち合うことを大切にしています。



これまでの活動を支えていただいたのは、近隣の皆様の善意と理解と協力によるものと深く心に留め、この1年の節目にあたり、感謝を表したいと考え、近隣の皆様をお招きしてバーベキューパーティーを開催しました。社会福祉協議会の関係

者の方々、カフェ運営の方々、カトリック原町教会の皆様、ご近所のご家族、約70名の方々がご集まりくださいました。また、仙台教区から平賀司教様、小松神父様、小野寺神父様、佐々木博神父様、狩浦神父様、東京からは幸田司教様、CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）のスタッフの方が駆けつけてくださいました。焼き鳥に格闘したり、浪江焼きそばに挑戦したり、宴もたけなわになるとハーモニカ演奏や相馬盆歌の生歌を聴きながら、輪になって踊るなど、楽しいひと時となりました。

これからも、カリタス原町ベースは、次のように活動指針を心に留め、活動を続けて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



- ①日本大震災と原発事故により困難な状況におかれている人々を支える地元の活動に協力し、
- ②福島の実態とそこに生きる人々の思いを世界中の人々につないでいく拠点です。
- 1) 地域の人々と交わりを大切にし、地域の復興に協力する。
- 2) 各地からのボランティアを受け入れ、地域へ派遣する。
- 3) 福島第一原発から25kmにあるベースとして、共に祈り、学ぶ。

カリタス原町ベースでの活動を体験して

カリタス原町ベース1周年に際し、原町ベースでボランティア活動を体験された3名の方から、活動を終えての感想をいただきましたので、ご紹介します。

私は、昨年9月から10月の約2ヶ月間、原町ベースで内勤をしながら、放射能被爆の福島を垣間見る貴重な体験をしました。

仮設訪問では、これまで原発に対する不安、質問に対して『安全を確保しているので心配ない』と押し切られてきたため、地震が起きた時、津波を恐れたが被爆のことは心配しなかった。ところが、一夜して立ち入り禁止となり、家に帰ることが出来ないまま家族が分断され、めどのない避難生活を余儀なくさせられている方のお話を聞きました。そして、人々の非難の深さは、生きる希望を失わせ、心身共に萎えてゆくのだということを痛感しました。

日本国土に54基もある原発について、無知、無関心に等しい自分を恥じ入り、自責の念にかられました。「あるとき以後、耕作地があるのに、作物を栽培できない、家畜がいるのに飼育できない、魚がいるのに漁ができないとなったら、人はひとであると言えないのではないか」（若松丈太郎）。この言葉が重く心に響いています。大きなさつま芋を手にして「せっかく庭に植えたのに、放射能の線量が高くて食べられない…」と嘆かれた信徒会長の顔を忘れることができません。

南三陸、福島の復興は、ほど遠いことですが、決して忘れ去られてはなりません。今日、このように生かされていることは当たり前のことではありません。生かされている「いのち」をどのように傷んだ自然や人々に分かつかを問われているように思えてなりません。

聖母訪問会 Sr.藤原てる

先日、カリタス原町ベースに行ってきました。スタッフの方の案内で、今年4月から日中に限り、立ち入りが許可された浪江町も視察させて頂きました。今もなお、ほぼ被災したまま放置され、原発事故により人々の消えた町…。

報道などで、現状は理解しているつもりでおりましたが、実際にその場を訪れてみると、何とも言えない…様々な思いが込み上げてきました。言いたいことは山程ありますが、一番強く思ったのは、実際にこの場に立ち、自分の目で現状を見て、それでもなお「原発再稼働」なんて言葉を吐ける人間が果たしているのだろうか？…ということ。

自民党・安倍政権に変わり、なにやら時勢は原発再稼働へと移行しつつある…。でもその議論は、一度はこの地を訪れてから行って欲しい…。そして出来るなら、国会ではなく、この地に会場を設けて議論して欲しい…。

この現実から目を背けて、もしくは知ったつもりで、語ってはいけない問題だと思いました。それは我々も同じ。日本人…いや、地球人みんながこの現実を直視して真剣に考えなければ、人類に未来などない…そんな気がします。

皆さんも、機会を作ってぜひ一度はこの地を訪れてみてください。そしてできれば、原町ベースでもボランティア活動を！

石巻ベーススタッフ 佐治 健男

被災地のため力を合わせて行きましょう

同じ被災地で働く身として、福島に、ひいては原町ベースには一度行って活動してみたいと感じておりました。頃よく米川ベースでボランティアとして活動されていた山内さんが、原町ベースのスタッフに着任されたことを聞き、山内さんから色々とお話を伺いながら、休みを利用して、一ボランティアとして活動に参加させていただく機会に恵まれました。

原町に着いた際の率直な感想は、「米川より栄えているなあ」でした。コンビニをはじめ色々なお店や施設、会社などがある景色は、ここが被災地であるという事を一瞬疑うような光景でもありました。同じ被災地でも津波被害と原発被害という事の違いなのだろうと、この時はそのように感じていました。

移動時間を含めて4日間、実質活動は2日間という日程の中で、上記の考え方はやはり違うものだったと感じました。

小高地区での活動や、今年4月に規制が緩和された原発20km圏内の浪江町視察を通して、ここは紛れもなく被災地であるという実感を受けることになりました。特に、津波による被害を受けている浪江町では、私たちが活動する南三陸町の2011年の光景をありありと想起させる景色がそのまま残っていました。



2日間の中での活動内容は、宅地の瓦礫撤去、私有地の側溝掃除、お花畑プロジェクトにおける草刈り作業の3つでした。どの作業も楽な作業とは言えず、また、たくさんの人の手が必要な活動であると感じました。

2011年、南三陸をはじめとした多くの被災地では、本当に多くの方がボランティアに参加してくださいました。しかし、当時規制があった福島では、ボランティアも激減してきている現状で、この町はこれから南三陸が辿ってきた道のりを、さらにゆっくりとした速度で歩んでいかなければならないのかと想像すると、とても考えさせられるものがありました。

南三陸の復興も進んできているとはいえ、まだまだやらなければならないことがたくさんあります。しかし、そのような中で、原町ベースの方々とは、今後も良い関係を持ちながら、協力できることを一緒に考えていくことができたらと思っています。一日も早く、この被災地が復興するように力を合わせていきましょう。原町ベースのスタッフの方々の御活躍と健康をお祈りします。

米川(南三陸)ベース スタッフ 荒川 直人



感謝・希望 祈りで紡いだ連帯の輪

2012年7月29日から2013年5月30日まで、日本女子修道会総長管区長会加盟の76修道会は「シスターズリレー2012」と題して、震災復興のために祈りの輪を紡いでまいりました。南と北から同時にスタートしたこの祈りの輪は、聖ウルスラ修道会と私たちオタワ愛徳修道女会が2013年5月26日から担当し、最終ランナーを走りきりました。なんと、大きな力と希望、愛を日本中のシスター方からいただいたことでしょう。

私たちの会は、震災の時には、家財道具や庭の地割れ等の被害はあったものの、建物には何の影響もありませんでした。そのため、広い修道院を利用して、全国各地からの支援物資を受け取り、被災された方たちに繋いできました。



最終ランナーを努めるにあたって、私たちは、まず、あの数え切れないほど多くの日本の支援者の方たちに感謝を捧げたいという思いと、明日への希望に繋がりたいという思いでいっぱいでした。そしてテーマを『感謝・希望 祈りで紡いだ連帯の輪』としました。祭壇前には、支援して下さったすべての方たちのお名前やグループ名を掲示しました。その数は334件（延べ件数約）。そして一年間連帯し、祈り、リレーを続けた全国の修道会の名前も掲示しました。

管区全体では聖体礼拝のリレーでこの5日間を繋いでゆくことを計画しました。本部修道院は初日の26日には、聖体を囲み、全国の支援者の方たちへの感謝の祈りを捧げました。続く27日～30日まで、毎日夕食後、一時間の祈りを捧げました。27日は原発事故で突然故郷を奪われ、家や友人まで失われた福島の方たちのために、「ひまわりの丘」という本とCDを使い、特に子どもたちの悲しみを思いながら祈りました。28日は岩手県下の被災されたすべての方たちのために十字架の道行を捧げ、29日は、宮城県の前被災された方たちのために、志津川小学校の子どもたちの作文や記事を使ってロザリオを祈りました。最終日30日は、朝ミサを「シスターズリレー」への感謝のために捧げていただき、近隣のシスター方や信徒の方たちと共に祈ることができました。晚にはこれからも被災者と繋がってゆくことができるように、テゼの歌を歌いながら一時間を過ごしました。

この間、信徒の方たちも、修道院に来てくださり、一緒に心を合わせて祈ることができ、聖なる5日間となりました。私たちの管区では仙台本部を含めて5つの共同体があります。それぞれの状況が違いますので、祈りの意向や方法は違っておりましたが、姉妹が心を一つにして、この「シスターズリレーを支える祈り」を祈り続けたこの一年間、被災者の方たちや支援している方たちのために、祈り続けた5日間。それは祈ることの力強さを全国の姉妹たちからいただいたように思います。一人ひとりの力は小さくても、日本中のシスターが心を込めて祈ることを神様は必ず聞き入れてくださるに違いありません。この祈りの力強さと祈りの実りを何とかして、実際に支援して下さっているベースの方たちや被災された方たちにお知らせしたいと願っています。「私たちは祈り続けます。忘れていません。」と。

オタワ愛徳修道女会 Sr.石田 弘子

聖母マリアのとりつぎを求めて祈る

「被災地における 聖母訪問会米川共同体の歩み」

未曾有の大災害となった東日本大震災直後から「聖母訪問会として何ができるだろう?」と祈りつつ問い続け、日本女子修道会総長管区長会の「シスターズリレー」に会員が積極的に参加することから被災地との関わりが始まりました。

リレーに参加した会員たちの想いや、被災地からの様々な情報を得て、会として踏み込んだ奉仕をしたいとの思いにかられ、仙台教区の「東日本大震災・復興活動にかかる『新しい創造』基本計画第二期にむけて」に、修道会として応える決断をしました。

仙台教区との話し合いを経て、気仙沼・石巻・米川の三教会を司牧しておられる主任司祭の会津神父様からの協力要請に応える形で、私たちの拠点を登米市の米川に置き、2011年12月から三人の会員が派遣され、活動しています。

私たちには、外国籍信徒の司牧の協力、カリタスジャパン米川ベースの活動参加・社協への協力、米川小教区の宣教司牧の協力という3つの任務があります。

まず外国籍信徒の司牧の協力については、震災を機に石巻、気仙沼、南三陸に農業、漁業を営む家族として多くの滞日外国人女性がいることが明らかになりました。そこで、カトリック信徒でありながら、教会から遠ざかっているフィリピン女性に母国語のミサへの参加を呼びかけました。しかし何分、面識がないためスムーズにいきませんでした。そこで、2012年4月からフィリピン人のシスターが派遣され、母国語で対話することで繋がりが持てるようになりました。



気仙沼、石巻、米川の各教会、志津川仮設店舗、聖母訪問会の聖堂で行われたフィリピン人のミサにあずかり、典礼の手助け、歌集作成、ギター伴奏等をして交わりが深まっています。ミサ後、持ち寄った手作りのフィリピン料理を分かち合いながら、楽しい一時を過ごしています。

また、ダブルの子どもたちの洗礼の準備をし、去る1月6日ご公現の祭日に8名の子どもが受洗のお恵みをいただきました。その後、クラブ活動、家庭の事情等でなかなか計画通りに実施できませんでしたが、初聖体にむけて、カトリックについての勉強を一緒にしています。

私は東北に住んではじめて、農業、漁業を営む人々が外国籍女性によって支えられてきたことの重さを知り、感謝の気持ちが湧き上がり頭の下がる思いです。被災にあって大変な状況にありながら、明るく前向きに取り組んでいる姿勢に感動しています。

次にカリタスジャパン米川（南三陸）ベースの活動参加・社協への協力については、米川ベースのボランティアと協働し、定期的に南三陸仮設住宅4か所の「お茶っこ」に出かけ、不定期に漁業支援、瓦礫撤去作業に参加しています。また、社協への協力として、お茶っこやデイサービスのお手伝いをしています。



米川(南三陸)ベースのボランティアとの交流

お茶っこでは、集まってこれた大人、子どもたちのニーズに応えるように、もてなしの心で交わりの一時を過ごしています。回数を重ねることで、顔見知りとなり、会話の中で笑いも飛び交っていますが、時折、仮設から次の住まいに移ることに對して、「せっかくこうして親しく話せるようになったのに同じところに行けないのは嫌だね」と本音が吐露されたり、「まさに瓦

礫なんだけど俺たちにとっては忘れがたい宝物なんだ!」という言葉は心に刺さり、共感することは生易しいことではないと痛感しています。

そして、お一人お一人のうちに秘められた心の深いところの傷に寄り添えていないことや、お酒を飲んで閉じこもり、近所づきあいを拒み孤立しておられる方と関わり方できないことを「お茶っこ」の関わり方で問題と感じています。



最後に米川小教区の宣教司牧の協力については、職員にカトリック信者が一人もいない米川聖マリア保育園に月一回出向き、お話、歌、紙芝居等をし、運動会、クリスマス会に参加して、子どもたちと楽しく関わり、素直な心でなんでも吸収できる幼児期に神様の愛に触れさせることの大切さを感じています。

また、米川、大籠はキリシタン殉教地であり、かつてこのキリシタン殉教地で洗礼を受け、現在、教会から遠のいているご近所のカトリック信者の方々と、ていねいに関わっていきたいと思います。

私たちが積極的に関わらなければならないのは、谷間に置かれ、小さくされた人々です。このような人々と顔見知りになり、心を傾ける本当にささやかな奉仕ですが、ご訪問の聖母の心で、存在と祈りをもって傷んだ自然や人々の「いのち」に寄り添っていきたいと思っています。

私たちの小さな活動を励まし、支えてくださっている皆さまに心から感謝申し上げます。

聖母訪問会 米川共同体 Sr.藤原 てる

宮古ベース ボランティア宿泊場所が変わります!

宮古ベースでは、これまでボランティアの方々の宿泊場所として空き仮設住宅を使わせていただいていたおりましたが、県にかえさなくてはならなくなりました。そこで、支援活動に使ってほしいとの被災された方からのご厚意により、札幌教区サポートセンターが中古住宅を購入し、7月から使用することとなりました。

※宮古ベース自体は、これまで同様『宮古教会』となります。

【宿泊場所の住所】

〒027-0095 岩手県宮古市佐原4丁目9-19

※宮古教会から車で約15分の場所です。(二中仮設のそばです。)

ボランティアの登録数が少なくなってきました。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

宮古の様子や募集要項などは、カトリック札幌司教区ホームページ (<http://www.csd.or.jp/index01.html>) の右上アイコン「東日本大震災 札幌教区サポートセンター」をクリックしていただくと見ることができますので、ぜひ一度ご覧ください。



瓦礫撤去も続く中で

震災から2年と4カ月が経ち、南三陸町ではまだ瓦礫撤去も続いている中でボランティア活動も時と共に変化してきています。

最近によく「疲れた……。いつまでこの状況が続くのか？」という声を耳にします。震災後から米川ベースでは、避難所へ行き、町内の瓦礫を片付け、仮設住宅へ通い、漁師さんと共に働き、南三陸と共に寄り添ってきました。町がほぼ壊滅状態の中で自分たちの活動はと



ボランティアと楽しく遊ぶ仮設住宅の子どもたち

ても小さく、気が遠くなる事もありました。でも「少しでも続けて行かなければならない。少しずつ復興は進んでいるのだ。」という心の奥底にある漠然とした希望と共に何とか続けてきました。そんな中、最近ソフト面（精神面）の活動の依頼が増えてきています。

今年度から幼稚園の保育補助に米川ベースのスタッフたちが毎週通っています。この幼稚園は、津波で流されてしまい、昨年新しく高

台に建てられました。今まではボランティアさんに遊んでもらっていた子どもたちも落ち着きを取り戻してきているので、定期的に通い、一緒に遊んでくれるお兄さんお姉さんを必要としています。一学期いっぱいですが、幼稚園に通うようになってから米川ベースのスタッフたちは、南三陸町で「〇〇先生」と呼ばれるようになり、町の中でも大分打ち解けてきました。

物資配布先の仮設住宅では、談話室ができたばかりの所もあり、お茶っこを今年から始めた所もあります。震災後から隣近所の方たちとコミュニケーションを取る機会も場所もなく過ごしてきている方たちは、これから新しい関係を築いていかなければなりません。

障がい者の方たちとも関わりを持ち始めました。子どもたちも、ハンディキャップのある方たちも、同じように皆、辛い震災時の気持ちを持っています。話したいと思っていても、話す相手がなくて場所がなければ心の中にずっとその辛い気持ちを溜めていってしまうので、深刻な問題になる前に、少しでも吐き出して楽になって貰い、また明日へと生きていく希望を持たなければなりません。

私たちが、家族や家、仕事、思い出、全てを失った人の気持ちを理解する事は到底できません。ですが、そんな時こそ一緒に居るだけでほんの少しでも心が救われたような気持ちになってくれば、私たちの活動は続けていく意義があると思います。

漁業支援においても仕事のお手伝いをするというよりも、本質的には一緒に楽しく仕事を遠くからきてくれたボランティアの方たちとする事が、漁師さんにとっては最高の気分転換になっているのではないのでしょうか。私たちにとっても、第一次産業に触れる機会は、とても貴重な体験で学びの場となっています。

そして、被災していながらも支援しなければならない立場にある地元の社会福祉協議会の方たちと共に活動を続けていく事はとても大切だと思っています。彼らも身内や同僚を亡くし、本当に辛く悲しい気持ちを心の中に使命感と引き換えに押し込めてしまっているように感じる事もあります。そのような状況の中で、私たちが毎日ボランティア活動を続けていく事によって、少しでも被災地の皆さんの支えになっていければ幸いです。

米川（南三陸）ベース長 千葉 道生

7月 石巻ベース予定

石巻ベースでは、7月もこれまで同様にベース1階オープンスペースでの活動と仮設住宅でのお茶会を中心に活動する予定です。

日帰りボランティアさんが多いため、大変助かっております。お茶会などで顔見知りになり、信頼関係が出来ているようです。今後も継続的に多くのボランティアさんに参加していただけることを願っています。皆さんのご参加をお待ちしております。

《ベース1階オープンスペース・会議室予定》

- 14日 グリーフケアわかちあい
- 15日 マッサージ
- 20日 布ぞうり作り
- 25日 ラッキーチャーム作り（手芸会）

《仮設お茶会予定》

- ・東松島市1か所
 - ひびき工業団地仮設…毎週火曜日
- ・石巻市6か所
 - 押切沼仮設…隔週水曜日（7/20は布ぞうり作り）
 - 東北電子仮設…隔週金曜日
 - 前山仮設…隔週日曜日
 - 山崎前仮設…隔週木曜日（7/25はラッキーチャーム作り）
 - 南境仮設…隔週金曜日
 - 開成13団地…月1回

またこの度、石巻ベースは、みやぎスマイルロード・プログラムに基づく「スマイルサポーター」に認定されました。

スマイルサポーターとは、ボランティアで道路・河川・海岸・公園等の県管理施設の清掃や緑化作業を行い、良好な環境づくりに積極的に取り組む個人、団体を、県の土木事務所が「スマイルサポーター」として認定する制度です。

石巻ベースでは、石巻市大街道の約1.3kmを担当し、歩道のゴミ拾いや花壇への植栽、除草作業などを行っています。皆様も、石巻ベースへボランティアに来られた際は、この「スマイルサポーター」の活動にもどうぞ協力ください。



ベースの花壇にもきれいな花が咲きました

石巻市大街道も、震災時は津波を被った地域ですが、こうして緑を増やしていく活動のお手伝いが出るのは、嬉しく思います。